

## 野菜共通 アブラムシ類について



図1 キャベツに寄生したアブラムシ類



図2 エダマメに寄生したアブラムシ類



図3 ナスに寄生したアブラムシ類



図4 ダイコンに発生したすす病

### 1 生態

県内の野菜で見られるアブラムシ類はワタアブラムシやモモアカアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ等である。

有翅のアブラムシ以外は移動することは少なく、群生し、吸汁を繰り返す。アブラムシ類の雌は単為生殖を行うため、爆発的に増加する。

本虫が越冬を卵で行うか、成・幼虫で行うかは、11月上旬ごろの平均気温が関わっており、平均気温が7℃以下の地方であれば草本等で卵により、14℃以上の地方であれば成・幼虫で越冬する。また、これらの中間の平均気温の地方では両方の越冬形態が認められており、本県では卵と成・幼虫の両方で越冬すると考えられる。越冬中の雌は冬の間も少しずつ発育・増殖している。有翅虫は3月ごろか

ら発生し、ほ場へ飛来する。

なお、アブラムシ類にはテントウムシやアブラバチ、ヒラタアブなどの天敵が多く存在することや、アリと共存することが知られている。

被害としては、吸汁による生育阻害や副次的に起きる病害への抵抗性低下、排泄物に発生するすす病の被害やCMV(キュウリモザイクウイルス)などのウイルスの媒介等がある。

## 2 発生状況

密度が高くなると有翅虫が現れ、ほ場への飛来が増加する。本県では5月ごろと9月ごろに有翅虫の発生が多くみられる。

夏期に気温が高くなると、アブラムシ類の活動は抑制される一方で、天敵の活動が活発となり、ほ場内の密度は低下する。また、露地では気象の影響を受けやすく、降雨が続くと減少し、晴天が続くと増加する。

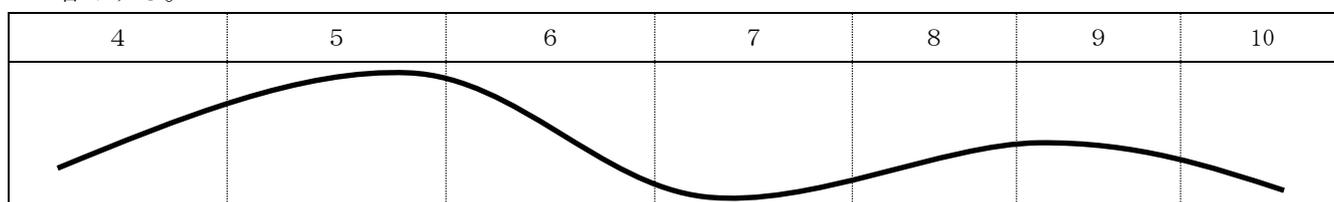


図2 黄色水盤によるアブラムシ類の発生消長

## 3 防除対策

### (1) 物理的防除

ほ場内外の雑草等で増殖するため、生息場所となる雑草を除去する。また、育苗時に発生した場合は、寄生株を本ぼに持ち込むと多発するため、定植時にはアブラムシ類の寄生の有無を確認し、健全な苗を定植する。

シルバーマルチ・シルバーテープ等の忌避資材の設置や、ほ場の周辺に防虫ネットを展張し、アブラムシ類の飛来侵入を防止する。

### (2) 薬剤防除

多発してからの薬剤防除は効果が劣るため、発生前や発生初期に薬剤防除を行う。特にウイルス病に感染すると、治療法はないため、定植時には必ず粒剤を施用する。

薬剤を散布する際には、虫体にかかるよう丁寧に行うか、浸透移行性のある薬剤を用いる。

気門封鎖系統の薬剤は虫体にかかることで、気門を封鎖し、窒息死させるため、虫体に確実にかかるよう丁寧に散布する。なお、残効性はないため、散布後は必ず効果を確認する。

薬剤によっては天敵への影響が大きいため、薬剤の選択に注意する。また、アブラムシ類は薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。